

科目ナンバリング		G-AAA02 82155 LB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ政治論 African Politics				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 戸田 真紀子			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>かつてアフリカはヨーロッパと対等もしくはそれ以上の地位を誇っていたが、この関係は大西洋奴隷貿易によって崩れ落ち、続く植民地化は首長国や王国を破壊もしくは変容させ、机上の線引きで国家が誕生した。独立後も資源の略奪は続き、国際金融機関主導の構造調整政策により、保健・医療や教育のための予算が削られ、多くの子どもたちが命を失うこととなった。冷戦終結後のアフリカは「紛争の大陸」と呼ばれた。近年、サハラ以南アフリカの紛争は減少しているが、依然として暴力に苦しむ人びとが存在している。アフリカ政治が扱うテーマは多々あるが、今回は、「サハラ以南アフリカにおいて、なぜ平和が訪れた国と紛争から解放されない国があるのか」という問題に焦点を当てながら、アフリカ政治への理解を深めると共に、比較政治学、国際政治学の理論、分析枠組みの修得を目指す。</p>											
【到達目標】											
アフリカ政治を分析するための基本的な分析概念・枠組みを理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>授業では、まず教員によるミニ講義を行い、次いでテーマごとに受講生に報告をしてもらう。ミニ講義のテーマは以下を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民族、宗教、社会構造</li> <li>2. 植民地化、植民地支配</li> <li>3. 新植民地主義、植民地化の遺産</li> <li>4. 政治制度、政党システム</li> <li>5. 地域機構</li> <li>6. 冷戦の代理戦争</li> <li>7. 民主化要求と紛争</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
口頭発表ならびにディスカッションの内容を総合的に評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する 原則、教員が資料を配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- アフリカ政治論(2)へ続く -----											

## アフリカ政治論(2)

授業中に参考文献リストを配布する。

### [授業外学習（予習・復習）等]

事前に指示されたテキストを授業前に各自読んでくること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52401 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ社会経済論 Socio-economy in Africa				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 池野 旬			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
1980年代以降のグローバル化のなかで、構造調整政策・貧困削減政策を実施し、また複数政党制を導入し地方分権化も推進しているアフリカ諸国の多くは、2000年以降に急激な経済成長を経験している。このような政治経済環境の変化に伴い、アフリカ農村の社会経済状況も大きく変容している。本講では、近年出版されたアフリカ農村の長・短期の社会経済変容を扱った文献を主としてとりあげ、それら先行研究の課題設定や分析手法について学んでいく。											
【到達目標】											
アフリカ農村をはじめとする途上国の調査対象地域でフィールドワークを行う場合に、いかなる調査課題を設定し、どのようなデータを収集して、いかに分析すべきかについて、基礎的な素養を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
受講者それぞれに文献1点（基本的に邦文単行書）の内容要約とコメントを担当してもらい、他の受講者との質疑応答を行い、解説するという形式で授業を進める。対象とする文献については、オリエンテーション時に受講者の希望を聴取する。 第1週：オリエンテーション（授業の進め方の説明、対象文献の選定） 第2-6週：アフリカ農村の社会経済変容に関する分析事例の紹介 第7-14週：受講者による文献紹介ならびに質疑応答、解説 学習の理解度、受講者数に応じて、変更される場合がある。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
担当した文献紹介の内容（50点）、授業で予定している質疑応答への積極的な参加（30点）を評価の対象とするが、出席状況も考慮する（20点）。											
【教科書】											
取り上げる文献は、オリエンテーション時に受講者の希望を聴取して、決定する。「アフリカ」、「農村」、「社会経済変容」以外を扱った文献を紹介したいという希望についても、相談に応じる。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
文献発表予定者が要約（文書）を準備するのは必須であるが、他の受講者も当該文献を事前に読了しておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
担当となっていない文献についても、事前に読了しておくことが望ましい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52402 LJ31									
授業科目名 ＜英訳＞		農業生態論				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 伊谷 樹一			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
現代アフリカにおける農業の実態を具体的な事例をもとに理解し、生態・社会・文化・歴史の各視点からその現状を総合的に把握できるようになる。また、農村の直面している課題、たとえば土地争い、エネルギー不足、環境劣化などの現状を理解しつつ、それらの相互関係について考察できるようになる。											
【到達目標】											
現代アフリカにおける農業の実態を具体的な事例をもとに理解し、生態・社会・文化・歴史の各視点からその現状を総合的に把握できるようになる。また、農村の直面している課題、たとえば土地争い、エネルギー不足、環境劣化などの現状を理解しつつ、それらの相互関係について考察できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1～3回 アフリカ大陸の生態環境 第4回 熱帯の作物 第5～7回 各地の在来農業 第8回 農業の変遷 第9回 アフリカ農業の課題 1. 食料事情 第10回 アフリカ農業の課題 2. エネルギー事情 第11回 アフリカ農業の課題 3. 生態資源の利用と保全 第12～14回 農村開発と環境保全											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 掛谷誠・伊谷樹一 『アフリカ地域研究と農村開発』(京都大学学術出版会) ISBN:978-4-87698-989-8 松田素二[編] 『アフリカ社会を学ぶ人のために』(世界思想社) ISBN:978-4-7907-1616-7 日本アフリカ学会[編] 『アフリカ学事典』(昭和堂) ISBN:978-4-8122-1415-2											
----- 農業生態論 (2)へ続く -----											

## 農業生態論 (2)

### [授業外学習（予習・復習）等]

予習・復習を必ず実施する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52403 LJ31									
授業科目名 <英訳>		野生動物保全論 Wildlife Conservation				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山越 言			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
野生生物の保全は、世界各地のさまざまな生態系がもつ生物多様性を維持するための地球規模の問題群を構成する。いっぽう、これらの動物と接して暮らす人々にとっては、固有の歴史と動物観に基づいた、地域特有な問題群の一部となっている。野生動物保全をグローバルとローカルが交差する現代的問題のひとつとして捉え直し、関連する基礎的な概念について、読解・討論を通じて理解する。											
【到達目標】											
授業で取り上げるキーワードについて基礎知識を身につけ、それを用いて討論し、各自のフィールドワークの現場で生かすことができる新たな問題意識を獲得する。											
【授業計画と内容】											
第1回目の授業時に日程・内容に関して受講者と相談ののちに決定する。下記は暫定的なモデル案。											
第1週 授業方針についての説明。											
第2-7週 自然保護の多様なアプローチを具体例を用いて紹介する。 主要な論点：「誰が」「どのような自然を」「どのような手段で」「何のために」護るのか、「保全と保存」論争、実用的価値と超越的価値、人為的介入の是非											
第8-10週 自然保護に関して行った議論を、地域研究における隣接分野に応用し、理解を深める。 主要な論点：「ほっとけない」運動、参加型開発論、人道的介入											
第11-15週参加者の関心に応じてキーワードを選び、特定の問題群について議論を行う。 キーワード例：生物多様性、環境持続性、外来種問題、レジリアンス、エコロジー思想、「木は法廷に立てるか」論争、「動物の権利」論争、公民権運動と自然保護思想、動物愛護と共感、アルピニズム・探検の思想、「景観」「風景」概念、風景画の誕生と変遷、ネイチャーライティングと交感、保護区と植民地主義、宗教と環境保全											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
質問、意見等による講義への主体的参加、討論における積極性を評価する。											
-----野生動物保全論 (2)へ続く-----											

## 野生動物保全論 (2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

討論のテーマについての予習・復習を求める。  
討論の内容次第で、指示した文献について適宜事前読解を求めることがある。

### (その他(オフィスアワー等))

講義時に必要に応じ指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52404 LJ31									
授業科目名 ＜英訳＞		生態史論 Historical Ecology				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
人間と生態系との関係（史）について、中部アフリカ熱帯雨林における具体例をとりあげて講義したうえで、生物多様性保全や持続的な地域開発にかかわる諸問題において、人間と生態系との関係（史）に関する研究が、どのような観点から重要であるかについて議論する。											
【到達目標】											
以下の2点が到達目標である。 （１）在来生態学的知識や文化的実践、また広域の政治・経済のしくみが、どのように人間と生態系の関係をかたちづけてきたか、ポジティブなもの、ネガティブなものをふくめて、人間活動が地域の生態系にどのような影響をおよぼしてきたかを理解する。 （２）人間と生態系の関係（史）という観点が、生物多様性保全や持続的な地域開発にかかわる諸問題にとりくむうえで、どのように有用であるかを理解する。											
【授業計画と内容】											
1. イントロダクション 2-14. 講義、文献講読、ディスカッション											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（100%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
（関連URL）											
<a href="https://sites.google.com/view/casinkyoto">https://sites.google.com/view/casinkyoto</a> (中部アフリカ研究 in Kyoto)											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業中に紹介した文献を読むこと											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		G-AAA02 52501 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカの生態と社会 Ecology and Society in Africa				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 木村 大治			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
フィールドへの入り方、テーマの見つけ方、データの集め方、論文の書き方等に関するいくつかのトピックを取り上げ、アフリカ熱帯雨林での農耕民、狩猟採集民の生態と社会に関する調査経験にもとづいて話す。											
【到達目標】											
アフリカでのフィールドワークの立案および実行に関して、具体的な知識を習得する。											
【授業計画と内容】											
木村自身の研究経歴の紹介 (3回) 中央アフリカ熱帯林の生態と社会の解説 (2回) フィールドワークに行く前に留意すること (1回) 植物採集，民族生物学，民俗分類について (1回) 衛星画像分析，GPS，ドローン等の使い方 (2回) 会話・相互行為分析 (2回) クラスター分析など統計分析のやり方 (1回) アイデアのまとめ方，論文の書き方 (KJ法，パソコンの活用など) (2回)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義中の質疑応答およびレポートに基づいて評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 木村大治 『共在感覚 - アフリカの二つの社会における言語的相互行為から』 (京都大学学術出版会) ISBN:978-4876986224 木村大治，北西功一(編) 『森棲みの生態誌 アフリカ熱帯林の人・自然・歴史Ⅰ』 (京都大学学術出版会) ISBN:978-4876989522 木村大治，北西功一(編) 『森棲みの社会誌 アフリカ熱帯林の人・自然・歴史Ⅱ』 (京都大学学術出版会) ISBN:978-4876989539 これらの参考書は必ずしも購入する必要はないが，希望者には割引で販売する。											
----- アフリカの生態と社会(2)へ続く -----											

## アフリカの生態と社会(2)

( 関連URL )

<http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/~kimura/>(木村ホームページにこれまでに書いた論文のリストがある。  
興味をもち読みたい論文があればコピーを渡すので申し出ること。)

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に出した課題は、次の回までにやってくること。

( その他（オフィスアワー等） )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52502 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ都市社会論 African Urban Society				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 平野（野元） 美佐			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>サハラ以南アフリカの諸都市は、外からのさまざまな影響を受けてきた。植民地時代に建設された都市はもちろん、古くから栄えてきた都市も、長距離交易、奴隷貿易、植民地化などの社会変動を受けつつ、その社会を形成、維持してきた。本講義では、ローカルとグローバルがせめぎ合うアフリカ都市社会の動態を、さまざまな文献を読み込むことで、多角的に理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
アフリカのさまざまな都市の過去から現在への発展や、アフリカ都市居住者の社会や生活について学ぶことで、アフリカ社会のもつダイナミズムやグローバル性を理解し、自己の研究対象地域への理解も同時に深めることができる。											
【授業計画と内容】											
<p>毎回、1人～2人の受講者に、文献の内容をレジュメにまとめて発表してもらい、全員で議論する形式で授業を進める。ただし、受講者の数やその関心によって、授業の進め方や内容を変更する可能性がある。</p> <p>第1回：ガイダンス（文献の紹介、授業の概要説明）  第2回～4回：アフリカ都市とは  第5回～7回：日本のアフリカ都市研究  第8回～9回：スワヒリ都市社会  第10回～11回：南部アフリカの都市社会  第12回～14回：西アフリカの都市社会</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表内容、出席など総合的に評価する											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
受講生は、配布された文献等についてあらかじめ読んだり調べたりする必要がある。											
（その他（オフィスアワー等））											
メールで事前に連絡をください。											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		G-AAA02 52503 LB31									
授業科目名 <英訳>		相互行為論 Interaction Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 高田 明			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
Using multi-disciplinary research data I have collected, this course discusses the entwined relationships between human activities and the environment with special emphasis on the exchange of various natural and social resources among people in contemporary African societies. Each year, I will select a theme pertaining to this subject and develop empirical and theoretical arguments together with the course participants. In the 2019 course, we will reconsider hunter-gatherer childhood with setting "play" as the key concept, based on both the lecturer's field research on several groups of San and the literature review of the relevant studies of the wider hunter-gatherer groups.											
【到達目標】											
In this course, we will develop the above areas of interest by analyzing selected domains of child play based on ethnographic materials.											
【授業計画と内容】											
This course deals with the following topics, each of which lasts two or three weeks. The topics may be modified according to the interests of the class. The lectures are given mostly in English, although I will use Japanese if all of the students are Japanese.											
1. An overview of early !Kung studies leading from the general characteristics to childhood											
2. A general to specific treatment of contemporary !Kung and other San groups											
3. The importance of play in ethnographic studies of childhood											
4. Soothing and Play: Breastfeeding and Gymnastic Behaviors											
5. Early Vocal Communication and Social Institution											
6. Pragmatic Constraints and Semiotic Resources for Imitative Learning											
7. Socialization in child group via Singing and Dancing Activities											
8. Play to work transition											
9. What the San populations have the implications for the anthropology of childhood											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Grading is based primarily on reports and class discussions, with weight given to active engagement in class.											
【教科書】											
Handouts will be provided in class.											
【参考書等】											
(参考書)											
Reference articles and books will be assigned in class.											
----- 相互行為論(2)へ続く -----											

## 相互行為論(2)

---

### [授業外学習（予習・復習）等]

Students will be required to submit two reports, one at the beginning and one during the middle of the course. Details about these reports will be provided in class.

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## 生業とものつくり (2)

---

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

授業前後に予習と復習が必要であり、講義中に適宜指示します。

### (その他(オフィスアワー等))

事前にメール等にて連絡してください。個別に対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52603 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ開発論 Development in Africa				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高橋 基樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>The term and phenomenon of development is often used and penetrating into everyday lives of African people, apart from very frequent reference in the circle of African governments, aid agencies, and international organizations. It is now very difficult to find places where any glimpse of development phenomenon cannot be observed in Africa. In this sense, researchers cannot ignore development to study contemporary African societies. We should note that development phenomenon has diverse and complex aspects in contexts of agents, implication for people, and outcomes. This class is aimed at obtaining basic knowledge to understand such complicated phenomenon of development.</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. To acquire basic understanding on various thoughts on development emerged from the beginning of the modernization to modern times;</li> <li>2. To acquire basic knowledge on agents and stakeholders of development and their mutual relations in Africa;</li> <li>3. To acquire basic understandings on international development assistance and its historical changes in Africa;</li> <li>4. To understand implication of major development indicators and ways of application of them for the purpose of analyze socio-economic situation of African countries</li> <li>5. To build the basic viewpoint to figure out relations between a student's own issue of research in his/her field in Africa and development phenomenon.</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>In the former half of the class (seven sessions), the lecturer discusses basic knowledge corresponding to the five aims of the class listed above. In the latter half of the class (seven sessions), the students is to deliver presentations which discuss relations between their own research topics, fields in Africa, or African countries which they plan to visit, with reference to the lecture.</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>50% of evaluation is based on students' performance including attendance, participation, and contribution in the class.</p> <p>50% of evaluation is based on students' presentations.</p>											
----- アフリカ開発論(2)へ続く -----											



## アフリカ開発論(2)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

( 参考書 )

Reference books will be introduced during class

Students will be instructed to refer to relevant literature by the lecturer in the class.

### [授業外学習 ( 予習・復習 ) 等]

Students are supposed to prepare their presentations, in accordance with the lecturer's instruction, Also, they have to review the lecture every time, so that contents of the lecture is well reflected in their presentation.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

Continuous and systematic learning on a topic will surely enhance your capability for research. It is urged to attend the class as frequently as possible.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## アフリカ環境学 (2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習（予習・復習）等]

実習については、ノートパソコンを使います。フリー・ソフトウェアとMSエクセルを使います。  
授業中に終了しなかった作業は宿題になりますので、授業外の作業が必要である。

### (その他（オフィスアワー等）)

講義担当者のオフィスアワーは平日（月～金）の13時から17時ですが、空振りのないように事前に連絡し、アポイントメントを取ってください。

メールアドレスは oyama.shuichi.3r[ @ ]kyoto-u.ac.jp です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 62801 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
【到達目標】											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集，分析。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72802 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
【到達目標】											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集，分析。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72803 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
【到達目標】											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集，分析。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52804 FJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
【到達目標】											
フィールドワークに関する基本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
【履修要件】											
1年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
自らのフィールドに関連する資料の収集, 分析が求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 62805 FB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
【到達目標】											
フィールドワークに関する基本的事項についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
【履修要件】											
2 年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
( 参考書 ) 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。											
( その他（オフィスアワー等） )											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		G-AAA02 72806 FB31									
授業科目名 ＜英訳＞		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。											
【到達目標】											
フィールドワークに関する事項の理解を総合化・深化させる。											
【授業計画と内容】											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、そのセメスター内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析，応用が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52807 LJ31									
授業科目名 <英訳>		熱帯病学 Tropical Diseases				担当者所属・ 職名・氏名		関西医科大学 教授 西山 利正			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
アジア・アフリカ研究科ではアジア・アフリカ地域でのフィールドワークを行う研究者が多い、ところがこれらの地域は我が国に見られない種々の感染症を中心とした疾病が見られる。これらの疾病に対する知識を深め、健康に研究を遂行するための諸知識を習得する。											
【到達目標】											
学生の調査地における風土病に関する知識を身につけ、フィールド調査時における自己の健康管理ができ、熱帯地域における感染症の予防や罹患した時の治療の説明ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回：熱帯病学総論											
第2回：カ媒介性疾患1（マラリア）											
第3回：カ媒介性疾患2（デング熱、黄熱、チクングニア、西ナイル熱など）											
第4回：カ媒介性疾患3（バンクロフト系状虫症、マレー系状虫症など）											
第5回：ダニ媒介性疾患（恙虫病、紅斑熱、ダニ脳炎、クリミア・コンゴ熱、ライム病など）											
第6回：ハエ媒介性疾患（リーシュマニア症、アフリカ睡眠病、回旋系状虫症、ロア系状虫症、人食いバエなど）											
第7回：経皮感染症（住血吸虫症、鉤虫症、糞線虫症、レプトスピラ症など）											
第8回：経口感染性ウイルス性疾患（A・E型肝炎、ノロ感染症、ロタ感染症、急性灰白髄炎など）											
第9回：経口感染性細菌性疾患（病原性大腸菌群感染症、細菌性赤痢、腸チフス、サルモネラ食中毒、コレラ、カンピロバクタ感染症など）											
第10回：経口感染性寄生虫疾患I（アメーバ赤痢感染症、トキソプラズマ症、ランブル鞭毛虫症、回虫症など）											
第11回：経口感染性寄生虫疾患II（鉤虫症、鞭虫症、肝吸虫症、肥大吸虫症、肝蛭症、異形吸虫症、肺吸虫症）											
第12回：ほ乳類咬傷による感染症・性感染症（狂犬病、破傷風、Bウイルス感染症、パストツレラ感染症、HIV感染症、梅毒、淋病、クラミジア感染症など）											
第13回：マラリア・デング熱簡易診断キットの使い方（実習を含む）											
第14回：航空機中で引き起こされやすい疾患と予防、旅行保険の上手な入り方											
第15回：トラベルワクチンの選択と接種プログラムの作り方											
【履修要件】											
高等学校で生物を履修していることが望ましいが、必須ではない。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートの提出により評価を行う。レポートのテーマはまず受講生の調査地を必ず記載し、その地域で流行している疾患を記載し、その予防対策、感染時の対応を記載する。											
----- 熱帯病学(2)へ続く -----											

## 熱帯病学(2)

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### ( 関連URL )

<http://www.who.int/ith/en/>(WHO International Travel and Health)  
<http://wwwnc.cdc.gov/travel/>(CDC Travel Health)  
[http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02\\_tokou\\_yobou.html](http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02_tokou_yobou.html)(厚労省検疫所ホームページ)  
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>(外務省海外安全情報ホームページ)  
<http://www.travelmed.gr.jp/>(日本渡航医学会トラベルクリニックリストホームページ)

### 【授業外学習（予習・復習）等】

講義の後、関連項目をWHOのInternational Travel and Health や米国CDCのYellow Book等の該当部分をインターネットで検索し復習すること。

### ( その他（オフィスアワー等） )

オフィスアワー 金曜日12時～13時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52808 LJ31									
授業科目名 <英訳>		実践的開発協力論 Practical Development Cooperation				担当者所属・ 職名・氏名		(株) かいほつマネジメントコンサルティング シニアコンサルタント 白鳥 清志			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>アフリカの農業・農村開発分野における技術協力の事例から、開発援助事業が本来目指していることと現場で起こっている様々な事象を題材にした講義。開発援助事業の概要を解説した後、開発とは何か、最終受益者・現地行政官・民間業者・開発ワーカーなど関係者それぞれのリアリティ、開発ワーカーの考え方、行動、役割、求められる能力などを議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>開発援助事業の課題と可能性についての理解を深め、開発ワーカーとして必要な知識、技能、態度、考え方をより深く考察できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の課題について次のテーマをカバーします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開発援助の仕組み(案件形成、事業管理、事業評価、PCM、必要な人材)</li> <li>2. 参加型開発(参加とは何か、参加型アプローチとツール)</li> <li>3. 開発事業の事例(タンザニア、エチオピア、モザンビークほか)</li> <li>4. 開発における組織と人(組織と人、計画と現実、援助を飼いならす)</li> <li>5. 開発への関わり方(開発援助とは、主役は誰か)</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への出席と、議論への参加で判断します。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
<p>(参考書)</p> <p>Robert Chambers 『参加型開発と国際協力』(明石出版) ISBN:978-4750313078(開発に関わる我々が変わることをを議論)</p> <p>JIRCAS 『ファーマー・システム研究: 理論と実践』(JIRCAS)(日本におけるファーマー・システムの詳細な解説と議論)</p> <p>Robert Chambers 『開発の思想と行動』(明石書店) ISBN:978-4-7503-2495-1(「参加型開発と国際協力」の続編で、開発の携わる者の責任と義務について議論)</p> <p>服部正也 『援助するものされるもの』(中央公論新社) ISBN:4120031047(開発の携わる者の態度と考え方)</p> <p>Paul Polack 『世界一大きな問題のシンプルな解き方 私に貧困解決の現場で学んだこと』(英治)</p>											
-----実践的開発協力論(2)へ続く-----											

## 実践的開発協力論(2)

出版) ISBN:978-4862761064 (開発をビジネスマインドで考える)  
大熊孝 『技術にも自治がある』 (農山漁村文化協会) ISBN:978-4540031076 (近代技術とコミュニティー)  
佐藤寛 『参加型開発の再検討』 (Development Institute) ISBN:978-4258091997 (外部者が開発にどうかかわるかを議論 <http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Keikyo/199.html>)  
Gonsalves, J. et al 『Participatory Research and Development for Sustainable Agriculture and Natural Resource Management』 (International Development Research Centre) ISBN:978-1844075638 (参加型開発に関する理論と実践のための豊富な事例集)  
和田信明・中田豊一 『途上国の人々との話し方』 (みずのわ出版) ISBN:B00X3MR8AM (開発現場におけるコミュニケーションの方法)  
佐藤仁 『野蛮から生存の開発論：越境する援助のデザイン』 (ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623076772 (特に日本の開発と開発技術を歴史的見地から検討)  
Alem, D. et.al. 『Farmer Research groups: Institutionalizing Participatory Agricultural Research in Ethiopia』 (Practical Action Publishing) ISBN:978-1853399008 (エチオピアでの参加型農業研究の経験のまとめ。技術協力の一例。)  
関根久雄 (編著) 『実践と感情：開発人類学の新展開』 (春風社) ISBN:978-4861104695 (開発現場に関わる者たちの感情とその実践への影響などについて。)

### (関連URL)

[https://sites.google.com/site/ethiorice/\(Ethiopia Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Center\)](https://sites.google.com/site/ethiorice/(Ethiopia Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Center))  
[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/\(Ethiopia Farmer Research group Project II\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/(Ethiopia Farmer Research group Project II))  
[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/\(Ethiopia Farmer Research group Project\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/(Ethiopia Farmer Research group Project))  
[http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech\\_ga/after/pdf/2004/hyouka\\_nougyo2\\_02.pdf\(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project\)](http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech_ga/after/pdf/2004/hyouka_nougyo2_02.pdf(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project))  
[https://www.youtube.com/watch?v=f4L9X39fhFc\(FRG Approach - Together we can make it\)](https://www.youtube.com/watch?v=f4L9X39fhFc(FRG Approach - Together we can make it))

### [授業外学習(予習・復習)等]

下記および他の開発援助事業資料を見て、質問等をリストアップしておく。

- エチオピア国立イネ研究研修センター強化プロジェクト  
<https://sites.google.com/site/ethiorice/>
- エチオピア農民研究グループを通じた適正技術開発普及プロジェクト  
<http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/>
- タンザニア農業技術者訓練センタープロジェクト  
<http://goo.gl/kpqxcE>
- ・ 外務省プロサバンナ  
<http://www.jica.go.jp/project/mozambique/001/activities/>
- ・ JVCプロサバンナ事業に関する取組み  
<http://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html>

### (その他(オフィスアワー等))

現場での研究調査などを通じたみなさんの開発に対する知識や経験をもとに、積極的な議論への参加を期待します。

実践的開発協力論(3)へ続く

### 実践的開発協力論(3)

どんなことでも問い合わせてください。

kiyoshi.shiratori@africa-rikai.net

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52851 SB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習Ⅰ Research Seminar on African Area StudiesⅠ				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授      アフリカ地域研究専攻全教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
アフリカ地域研究にかかわる基礎的な問題とそれに対するアプローチの方法についての演習をおこなう。											
【到達目標】											
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52852 SB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習ⅠⅡ Research Seminar on African Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授      アフリカ地域研究専攻全教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
アフリカ地域研究にかかわる具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。また、博士予備論文のための研究に関する広い立場からの評価や指導をおこなう。											
[到達目標]											
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		G-AAA02 72853 SB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習ⅠⅠⅠ Research Seminar on African Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授      アフリカ地域研究専攻全教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
アフリカ地域研究にかかわる総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を整合的に整理して提示することができる。											
【授業計画と内容】											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72854 SB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習IV Research Seminar on African Area Studies IV				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授      アフリカ地域研究専攻全教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
アフリカ地域研究に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。											
[到達目標]											
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を整合的に整理して提示することができる。											
[授業計画と内容]											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
[履修要件]											
博士予備論文の審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											